

みずほマーケット・トピック(2013 年 12 月 27 日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※2013 年の「みずほマーケット・トピック」は今回で終了です。本年もご愛読有難うございました。来年も引き続き何卒宜しくお願ひ致します。2014 年見通しに関しましては 12 月 25 日発行の『中期為替相場見通し』をご参照下さい。

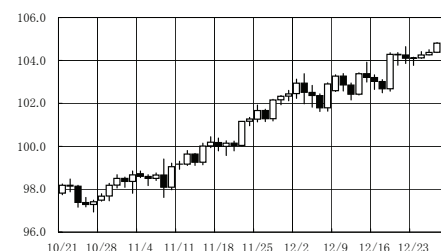
1. 為替相場の動向(●関連レポート:「みずほ BK Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・今週のドル/円相場は週後半に約 5 年 2 か月ぶりとなる 105 円台をつける展開。週初 23 日に 104 円近辺でオープンしたドル/円は、本邦祝日の中、前週に年初来高値を更新したこともあって、ポジション調整の動きに一時週安値となる 103.77 円をつけた。だがドル売りの勢いは続かず、米金利が上昇に転じると直ぐに 104 円台近辺まで値を戻し、24 日に日経平均株価が 16,000 円台に乗せたことを受けてドル/円は 104 円台前半まで値を上げた。その後日経平均株価が反落する動きに合わせて、ドル/円も軟化したものの、米 11 月耐久財受注や米 11 月新築住宅販売の良好な結果を受けて米金利が大きく上昇し、104 円台前半で底堅く推移した。25 日はクリスマスで主要市場が休場となる中、ドル/円も 104 円台前半での小動きに終始。26 日に入ると、日経平均株価が 16,100 円台に上昇したことを受けてリスク選好の動きが強まり、ドル/円も 104 円台後半まで上昇した。本日 27 日にかけても株式市場の堅調地合いは継続し、日経平均株価が 16,200 円台まで更に値を伸ばす展開に円売り地合いが強まると、ドル/円は、2008 年 10 月以来、約 5 年 2 か月ぶりの 105 円台まで買い進められた。その後は調整が入るも、104 円台後半で底堅く推移している。
- ・今週のユーロ/ドル相場は動意に乏しい展開。週初 23 日に 1.36 台後半でオープンしたユーロ/ドルは、一時週高値となる 1.3717 をつけるも、その後は新規材料に乏しく 1.36 台後半で上値重く推移。24 日には、米 11 月耐久財受注や米 11 月新築住宅販売の良好な結果を受けた米金利の上昇を背景に、ユーロ/ドルは一時週安値となる 1.3655 まで下落した。だが、クリスマス休暇を控え市場参加者が少ない中で下値は限られ、25 日にかけてユーロ/ドルは 1.36 台後半で動意に乏しい展開となった。26 日も欧州主要市場が休場となる中、引き続き流動性に乏しい状況が継続。ユーロ/円が上昇する動きにユーロ/ドルも 1.37 台をつける場面がみられるも、方向感を見出し難い時間帯が続いた。本日にかけては、ドル/円が遂に 105 円台に乗せる中、ユーロ/円の上昇に連れてユーロ/ドルも 1.37 台前半で推移している。

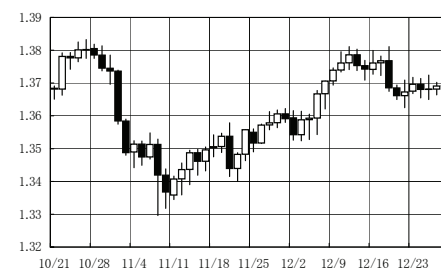
[今週のおもな金融市場動向]

		前週末	今 週			
		12/20(Fri)	12/23(Mon)	12/24(Tue)	12/25(Wed)	12/26(Thu)
ドル/円	東京 9:00	104.30	104.03	104.18	104.28	104.52
	High	104.64	104.12	104.41	104.49	104.85
	Low	103.85	103.77	104.11	104.25	104.39
	NY 17:00	104.08	104.11	104.20	104.42	104.82
ユーロ/ドル	東京 9:00	1.3656	1.3678	1.3697	1.3764	1.3671
	High	1.3710	1.3717	1.3705	1.3680	1.3701
	Low	1.3625	1.3669	1.3655	1.3661	1.3664
	NY 17:00	1.3673	1.3696	1.3675	1.3679	1.3690
ユーロ/円	東京 9:00	142.39	142.29	142.68	142.63	142.95
	High	142.73	142.73	142.88	142.88	143.54
	Low	142.12	141.90	142.45	142.53	142.88
	NY 17:00	142.28	142.56	142.60	142.83	143.47
日経平均株価		15,870.42	-	15,889.33	16,009.99	16,174.44
TOPIX		1,261.64	-	1,257.55	1,258.18	1,279.34
NYダウ工業株30種平均		16,221.14	16,294.61	16,357.55	-	16,479.88
NASDAQ		4,104.74	4,148.90	4,155.42	-	4,167.18
日本10年債		0.68%	0.68%	0.68%	0.70%	0.71%
米国10年債		2.89%	2.93%	2.98%	2.98%	2.99%
原油価格(WTI)		99.32	98.70	99.22	-	99.62
金(NY)		1,203.70	1,198.20	1,203.30	-	1,210.30

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・来週にかけての米経済指標では、年明け 1 月 2 日(木)には 12 月 ISM 製造業景気指数の発表がある。11 月は 57.3%と 10 月の 56.4 から予想外に改善し、6 か月連続の上昇となった。先行指数である新規受注項目が上昇したほか、労働市場を占う上でも注目される雇用も上昇するなど、総じて良好な結果だった。それ以降に発表された 12 月ニューヨーク連銀製造業景気指数や 12 月フィラデルフィア連銀製造業景気指数などは改善しており、製造業の着実な回復が継続している模様である(市場予想の中心:56.9%)。
- ・また、同じく 2 日には米 11 月建設支出が発表される。10 月は前月比 0.8%増と拡大したものの、公的部門の学校建設が同 8.5%増となったことが主因で、民間部門は住宅が同▲0.6%、非住宅も同▲0.5%と冴えない結果となっている。過去数か月間、民間部門はほぼ横ばいでの推移となっているが、11 月は住宅着工件数が同 22.7%増と大幅に増加。新築住宅販売は同▲2.1%と 4 か月ぶりに減少したものの、水準自体は過去分の遡及改定を受けて予想を上回る水準となっており、持ち直しの動きが期待される(市場予想の中心:前月比 0.6%増)。そのほかには、12 月 31 日(火)に 10 月 S&P/ケース・シラー住宅価格、12 月シカゴ連銀 PMI、12 月消費者信頼感指数の発表などが予定されている。なお、年明け以降の FRB 高官発言としては 4 日(土)にバーナンキ FRB 議長を始め、スタイン FRB 理事、プロッサー・フィラデルフィア連銀総裁が勢揃いして、フィラデルフィアで開催される会議で講演を行う。

	本 邦	海 外
12 月 27 日(金)	-----	-----
30 日(月)	-----	-----
31 日(火)	-----	・米 10 月 S&P/ケース・シラー住宅価格 ・米 12 月シカゴ購買部協会景気指数 ・米 12 月消費者信頼感指数
1 月 1 日(水)	休 場(正月)	休 場(米 New Year's Day)
2 日(木)	-----	・米 11 月建設支出 ・米 12 月 ISM 製造業景気指数
3 日(金)	-----	-----

【当面の主要行事日程(2014 年 1 月～)】

欧州中銀理事会(2014 年 1 月 9 日、2 月 6 日、3 月 6 日)
 日銀金融政策決定会合(1 月 21～22 日、2 月 17～18 日、3 月 10～11 日)
 米 FOMC(2014 年 1 月 28～29 日、3 月 18～19 日、4 月 29～30 日)

以 上

国際為替部
 マーケット・エコノミスト
 唐鎌 大輔(TEL: 03-3242-7065)
Daisuke.karakama@mizuho-cb.co.jp

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2013年12月26日	2013年を終えて～ブラザ合意以来の動きに挑む2014年～
2013年12月20日	週末版(動き出したユーロ圏単一清算基金(SRF)～主要論点の整理～)
2013年12月19日	FOMCを終えて～強まる「放って置けば円安」の地合い～
2013年12月18日	ユーロ圏労働コストから聞こえるデフレの足音
2013年12月17日	「アスムセンなき政策理事会」を考察する
2013年12月16日	最近の相場をどう解釈すれば良いのか
2013年12月13日	週末版(流動性逼迫とユーロ上昇、そして国債ウェイト問題などについて)
2013年12月10日	米7～9月期資金循環統計～米家計は約6年ぶりの貯蓄不足～
2013年12月9日	米11月雇用統計や年内taperingの行方などについて
2013年12月6日	週末版(ECB理事会を終えて～存在感を増す為替関連の問答～)
2013年12月5日	直近の対内・対外証券投資とドル建て日本株投資の過熱感
2013年12月4日	緩和観測は海外勢の希望的観測～春先に似る過熱感～
2013年12月3日	103円台と整合的な実質レート及び物価などを考える
2013年12月2日	ECB理事会プレビュー～現状維持も、リスクはM3か～
2013年11月29日	週末版
2013年11月27日	ECB、「次の一手」の整理～5つの選択肢を点検する～
2013年11月26日	ユーロ圏M3で見るユーロ相場の展望などについて
2013年11月25日	ECBも「連想ゲーム」に巻き込まれるのか
2013年11月22日	週末版(年金運用改革に係る雑感などについて～インフレ対策というよりも、諸外国対比の是正が主眼～)
2013年11月20日	本邦10月貿易統計などについて
2013年11月19日	最近の欧米資本フローから見る為替相場
2013年11月18日	再び挑むドル建て日経平均「150ドル」の壁
2013年11月15日	週末版(ユーロ圏7～9月期GDPなどについて～今後の焦点は加盟国間の成長率格差に～)
2013年11月14日	衆院解散表明から1年～「良いとこ取り」から「平常運転」へ～
2013年11月13日	バイトマン独連銀総裁による国債リスクフリーの否定を考える
2013年11月12日	ユーロ圏の主導するグローバルインバランスの拡大
2013年11月11日	11月ECB理事会について～ドラギ・ブットの芽生え?～
2013年11月8日	週末版
2013年11月7日	生保下期運用計画などからみる円相場の今後
2013年11月6日	欧州委員会秋季経済見通し～不安な内需主導シナリオ～
2013年11月5日	ECB理事会プレビュー～11月は現状維持も論点は多数～
2013年11月1日	日銀金融政策決定会合を終えて～市場出身審議員による警鐘は重要～
2013年10月30日	ノボトニー発言の読み方などについて
2013年10月29日	2014年、ユーロ圏銀行同盟の一里塚に絡む不安
2013年10月28日	低下する円相場のボラティリティとユーロ/ドルの警戒サイン
2013年10月25日	週末版(ユーロ圏固有のユーロ買い要因を考える～過剰流動性減少やドイツ市場の活況～)
2013年10月22日	Jカーブ効果を諦める時なのか?
2013年10月21日	勢いつく「敵失のユーロ高」の行方
2013年10月18日	外貨準備の民間委託報道などについて～「外貨準備の増加」は良いことか、悪いことか～
2013年10月11日	『2013年秋季IMF国際金融安定性報告書』について～分散化(fragmentation)の計量分析など～
2013年10月9日	2013年秋季IMF世界経済見通しについて
2013年10月8日	「火遊び」によるドル売りは買い場か
2013年10月7日	「2年で2%」の旗の降ろし方～日銀会合を終えて～
2013年10月4日	週末版(2大ドル売り材料を受けた為替相場の現状～ユーロは長期平均からも上離れへ～)
2013年10月3日	ECB理事会を終えて～芽生えるユーロ相場への高値警戒～
2013年10月2日	ECB理事会プレビュー～少なくともも期待するLTROアナウンス～
2013年10月1日	日銀短観(9月調査)～業況改善の裏で気掛かりなコスト環境～
2013年9月27日	週末版(対内証券投資を引き戻すカードはあるか～「期待に働きかける」局面を超えて～)
2013年9月26日	家計部門の外貨運用の現状と展望について
2013年9月24日	「決められないオバマ」はドル売り要因か?
2013年9月20日	週末版(13年6月末時点の本邦家計資産の状況～増加した内貨性リスク資産、減少した外貨性資産～)
2013年9月19日	FOMC(9月17～18日開催分)を終えて～4つの論点で考える～
2013年9月18日	欧米の証券投資動向と為替相場の関係などについて
2013年9月17日	次期FRB議長人事を巡る動向について
2013年9月13日	週末版(「懐かしのパターン」を警戒するユーロ相場～俄かに高まる南欧債利回り～)
2013年9月11日	何故ドル相場の上値は重いのか?～4つの理由で考える～
2013年9月10日	日米金利差とドル/円相場について～2年「1%ポイント」が鍵～
2013年9月9日	五輪開催決定、雇用統計、そしてFOMCの読み方
2013年9月6日	週末版(ECB理事会を終えて～「次の一手」は意外に近いか～)
2013年9月5日	米貿易収支について～ドル買い相場の援軍に～
2013年9月4日	ECB理事会プレビュー～慢心なく現状維持へ～
2013年9月3日	9月末に注目する配当金と円相場の関係～ドル/円の重石?～
2013年9月2日	taperingの煽りを食らうのはユーロ?
2013年8月30日	週末版
2013年8月29日	対内・対外証券投資動向が示すドル/円の底堅い理由
2013年8月28日	「有事のドル買い」に至らない理由などについて
2013年8月26日	米7月新築住宅販売件数の急落などについて
2013年8月23日	週末版(次に売られそうな新興国通貨は……東欧通貨は乗り切れるのか～)
2013年8月22日	FOMC議事要旨(7月30～31日開催分)について
2013年8月21日	豪ドル相場の水準感について
2013年8月20日	新興国通貨の急落について～ラジャンでも手詰まり感拭えず～
2013年8月19日	本邦7月貿易収支について～遂に数量指数が増加へ～
2013年8月16日	週末版(ユーロ圏経済はテイクオフ(離陸)し始めたのか?～「今がピーク」のリスクも～)
2013年8月14日	米7月小売売上高や米家計部門のB/S調整の進捗について
2013年8月13日	法人税減税とデフレギャップに求められる「新たな縮小余地」
2013年8月12日	本邦4～6月期GDPを受けて～3つの点からレビュー～
2013年8月9日	週末版(ECBバランスシートの縮小について～4つ目のユーロ買い要因?～)
2013年8月8日	2013年上半年期国際収支を受けて～基礎収支の劣化は鮮明～
2013年8月7日	実質ドル/円相場から考察する水準感
2013年8月6日	消費増税を巡る円相場の反応:3つのシナリオ
2013年8月5日	米7月雇用統計について～気掛かりな賃金の減少～
2013年8月2日	週末版(ECB理事会を終えて～フォワードガイダンスを巡る「理解の溝」も～)
2013年8月1日	FOMC声明文及び米4～6月期GDPの読み方
2013年7月30日	ECB理事会プレビュー～現状維持も気になる論点は複数あり～
2013年7月29日	「名目ドル高・実質ドル安」の“ねじれ”が強まるドル相場
2013年7月26日	週末版(ユーロ圏6月マネーサプライ統計などについて～銀行貸出も日本の後追いか～)
2013年7月24日	本邦6月貿易収支について
2013年7月23日	「Believe me」から1年～ドラギ総裁の演技力はどこまで続くか～
2013年7月22日	週末の各種イベントに対する論点整理～中国、G20、参院選～
2013年7月19日	週末版(直近の対内・対外証券投資動向を受けて～過去最大の対外証券投資の読み方～)
2013年7月18日	参院選後の株・為替市場はどう動くか?